

29年3月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/3月	4月	5月
伐採動向	スギ	0.0	0.0	△ 16.7
	ヒノキ	△ 20.0	△ 30.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 33.3	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 33.3	16.7
出荷・販売動向	スギ	0.0	△ 8.3	△ 33.3
	ヒノキ	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
	カラマツ	△ 16.7	△ 33.3	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 66.7	△ 66.7
手持立木在庫動向	スギ	△ 16.7	8.3	△ 30.0
	ヒノキ	△ 37.5	△ 12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7

・スギの立木伐採は3月、4月は横ばい、5月は減少。ヒノキは3月、4月は減少、5月は横ばい。カラマツは3カ月連続して減少、エゾ・トドは3月、4月は減少、5月は増加。

・スギ原木の出荷は3月の横ばいが、4月、5月は減少。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3カ月連続して。

・スギの手持立木在庫は3月の減少が、4月はやや増加するが、5月は再び減少。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3カ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツの間伐を実行中、現在のところ大雪もなく順調に伐採が続いている。融雪期に入るので、土壌の状況によっては生産性が低下する可能性がある（北海道）。
- ・国有林の間伐立木物件を実施中だが、今月は運材車の確保が予定より厳しく生産調整をした（北海道）。
- ・スギ・カラマツの伐採は積極的（東北）。
- ・現在、伐採なし（東北）。
- ・社有林の伐採後、新年度の生産開始（中部）。
- ・雪の影響で出材減（中国）。
- ・スギ主伐を実施、カラマツはほとんどなし（中国）。
- ・4月に2haのスギ主伐に移行、間伐も並行して行う（九州）。

(出材・販売動向)

- ・トドマツ間伐材の販売は流通材が少ないので需要がある。しかし、3月中旬から5月末まで融雪期で林道の通行が出来なくなり、翌月・翌々月は販売が減少する（北海道）。
- ・運材車の確保が困難なため出材調整中（北海道）。
- ・スギ・カラマツの販売はやや強気（東北）。
- ・雪の影響で出材減（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・通年で伐採しているので手持ち立木在庫はやや減少している。新年度の国有林のトドマツ間伐立木の公売物件を応札していく予定（北海道）。
- ・スギ・カラマツの立木買入れはやや強気（東北）。